

「子供叱るな／来た道だもの／年寄り笑うな／行く道だもの」

ある朝、通勤途上で聞いていたラジオから流れてきた一節です。今から12年位前のことでした。その時は、「昔の

## ナビゲーター

人はいいことを言うなあ。言い伝え、諺？」と思った程度でしたが、その後もずっと頭の隅に残る言葉でした。そして今年、高齢者の仲間入りをした私は、冒頭の言葉を折につけ思い出し、実感することが多くなりました。

# 産業カウンセリング理論と私の実践

◆ 39

私は、現在、産業カウンセラー、キャリアコンサルタントとしての相談業務を生業とする傍ら、所属支部におけるキャリアコンサルタントの養成事業に15年ほど携わっています。

キャリアコンサルタントは、「職業選択や能力開発に関する相談・助言を行う専門家」ですが、対人援助職として必要とされる基本的な技能は、人間尊重に基づいた傾聴力、カウンセリング力にほかなりません。養成講習では、

## 生涯現役時代の到来に想う

あらゆる年代の相談者に対応ができるキャリアコンサルタントを目指して、傾聴訓練をはじめ多種多様な演習が行われます。訓練の一つであるロールプレイ演習の中で、キャリアコンサルタント役が、自分の実年齢よりも若いクライアント役の相談は比較的よく理解ができるのに、年上のクライアント役の相談になると、受け止めや理解に苦労する場面にはしばしば遭遇します。若い世代の受講者だけでなく、比較的高齢者に近い40

〜50代の受講者にも同様のことがみられるので、相談者の立場になって「聴く」とかは「聴けない」は、その人の年齢よりも、個々人の感性に起因すると考えていました。しかし、自分自身が年齢を重ね、老いを感じるとともに、ここ10年余の間に両親や義母を看取り、年長の友人・知人との別れなど、いわゆる喪失体験を経る中で、あることに思い至りました。それは、人は自分が生きた時代のできごとや経験、心持ちなどを実感でき

るとできないのでは、他者（傾聴訓練で言えば、クライアント役）についての理解にかなりの違いがあるのではなにかという事です。考えてみれば至極当然のことなのですが、このことに気づいた時、私には冒頭の言葉が現実味を帯び、感慨を持って思い起こされたのでした。

あります。高齢者の相談に限ったことではありませんが、キャリアコンサルタントの一人として、相談者の人生に敬意と温かな関心をもって相談に臨むことを肝に銘じている昨今です。

さて、最近知ったことなのですが、冒頭の言葉には続きがありました。

2021年4月、改正高齢者雇用安定法が施行され、70歳までの就業機会確保が企業の努力義務となり、高齢者雇用をめぐる環境が大きく変化する中で、まさに生涯現役時代が到来しました。高齢世代が就労やキャリアについての相談に訪れる機会が増えつつ

「来た道／行く道／二人旅／これから通る今日の道／通り直しのできぬ道」（永六輔著『大往生』1994年）

【日本産業力ワーカー協会 上信越支部会員、1級キャリアコンサルタント】  
本多陽子

（火曜日掲載）

# 年寄り笑うな 行く道だもの

